

新除草・調節剤

ダクロン

CMPP乳剤

中外製薬株式会社

対象作物：トマト・ニンジン。

性状・作用特性：本剤は、有効成分（3-クロルー4-メチルフェニル）-2-メチルペンタンアミド 25%を含む乳剤である。

本剤は、接触型除草剤で、発生初期の一年生雑草に効果があり、また雑草の発生を長期間抑える土壌処理剤の効果もある。なお、トマト・ニンジンに対しては、選択性がある。殺草効果はやや遅効性で、普通は処理後2～4日から効果があらわれる。

毒性については、ラット急性経口毒性LD₅₀が4,500 mg/kg以上でほとんど無害である。

魚毒は、コイトLM48 hr 6.3 ppmで、通常的使用方法では魚貝類に対し影響が少ない。しかし、一時に広範囲に使用するときには注意すること。

使用方法：トマト対象の場合、移植栽培では、本畑移植後の雑草発生初期、直播栽培では、本葉8～10枚（草丈20 cm位）以後（オ1花房～オ2花房が見え始める頃）の雑草発生初期。

ニンジン対象には、ニンジンの発芽前および本葉3枚（草丈7～8 cm位）以後の雑草発生初期に、いずれも10アール当り、製品量500～1000 ccを100ℓ前後の水に溶かし、畦間または全面に散布する。

使用上の注意としては、本剤の除草効果が最も高い時は雑草の発芽後より草丈5 cm位までで、この時期をねらって処理すること。トマトの8

葉期およびニンジンの3葉期以前の処理は、生育抑制をみることがあるのでさける。他薬剤の散布前後に全面散布する場合、すなわちスミチオンは1週間、EPN・トリアジン・ダイセンの場合は3日前後の散布および混用は薬害がでるのでさける。処理時の温度が高いと、効果も高くなるが薬害も多くなる傾向があるので、夏期高温時は基準使用量の範囲内で薬量を減らす方が望ましい。

NCS水溶剤

東京有機化学工業株式会社

三洋貿易株式会社

対象作物：ネギ・タマネギ苗床対象。

性状・作用特性：本剤は、有効成分N-メチルジチオカーバミン酸アンモニウム 50.0%を含有する水溶液である。本剤は、土壌中に注入されると急速に分解して、メチルイソチオシアネイトガスを発生し、雑草の種子を殺す土壌処理剤である。本剤は、元来、土壌中の病原菌や土壌害虫の殺滅用として開発されたものである。

雑草種子に対しては、非選択的に作用し長期にわたって雑草の発生を抑える。

使用方法：耕起しよく砕土した後、均平に整地して播種床を作る。本剤を30～40倍にうすめたものを、1アール当りに90ℓをジョロで全面に均一に灌注散布する。散布後直ちにビニールやポリエチレンフィルムで地表面を、秋まきでは7～10日間位、春まきでは10日間位被覆する。覆いをとった後、地表面を軽く2～